

安全保障戦略研究

第5巻 第1号 2024年12月

戦後史のなかの2022年安保三文書改定

千々和 泰明

中曽根政権期におけるペルシャ湾への人的貢献の検討
——掃海艇派遣問題を中心に——

高嶋 正顕
中島 信吾

湾岸危機に対する日本の人的貢献の政治的失敗と政策過程の質
——政策決定者に影響を及ぼす歴史の教訓と行政組織の政策機能——

諸永 大

陸上自衛隊の海外派遣に係る政策の軌跡と展開
——冷戦終結以降、UNTAC派遣までを焦点に——

小橋 史行

偽情報と武力紛争法

永福 誠也

国際人道法における文民の保護の喪失と回復
——「回転扉」論の国際法上の位置づけ——

西野 仁人

米国における特殊作戦部隊の組織的基盤の形成
——ベトナム戦争から対テロ戦争までを中心に——

塚本 勝也

1980年代後半におけるアメリカ陸軍の低強度紛争の認識と取組
——「平時不測事態作戦」の概念と適用を中心に——

新福 祐一

イエメン南部分離主義の系譜と南部移行会議の戦略
——イエメン内戦の第三極に至る道程——

吉田 智聡

情報戦としての日本陸軍の対ソ諜報活動
——「情報将校の系譜」と終戦工作——

花田 智之

大正期における海相財部彪と機関科士官の待遇問題

山口 昌也

【研究ノート】作戦環境としての領域
——安全保障関連文書から読む日本の領域に対する認識とその変化——

齊藤 拓海